

雑誌コーナーへようこそ！

みなさん、雑誌コーナーをご存じですか？精華町立図書館の雑誌コーナーでは、約200タイトルもの雑誌がみなさんをお待ちしています。図書館入ってすぐ右手にあるこのコーナー。普段は通り過ぎて、小説や調べものの棚へ向かっているそこのアナタ、今年はすこし余裕をもって雑誌を片手に取ってみませんか？あたらしい世界がひろがって、実りのある一年になるかもしれませんよ。

館長のおススメ

図書館の文芸雑誌から

- 80年余の歴史をもつ

文学界

と

文藝

精華町の図書館には、文学の雑誌が16誌あります。文芸時評や芥川賞などで話題になる純文学の雑誌では、『文学界』（文藝春秋）、『群像』（講談社）と『文藝』（河出書房新社）を受入れています。▼なかでも『文学界』と『文藝』は、昭和8（1933）年に創刊された長い歴史をもつ雑誌です。当時は、『中央公論』や『改造』などの総合雑誌が文芸面でも有力でした。折しも「文芸復興」の気運が高まるなか、両誌とも文芸専門誌として創刊されました。

▼『文学界』は、武田麟太郎、小林秀雄、川端康成ら7人による同人誌として出発しました。やがて同人も増え、文学史に残る多くの作品発表の場となりました。戦後同人誌から文藝春秋新社の文芸誌へと変わり、創作、評論等だけでなく、「同人雑誌評」や「文学界」新人賞を設け新人発掘や育成にも力を入れました。第1回新人賞と芥川賞を受けた石原慎太郎の「太陽の季節」は当時大きな反響を呼びました。吉行淳之介、大江健三郎をはじめ中上健次、最近では柴崎友香など、多くの作家が同誌発表作で芥川賞を受賞しています。

▼『文藝』は、『改造』の文芸部門を独立させ生まれた雑誌です。創刊号からゴーリキーの寄稿を載せるなど、外国文学紹介にも特色がありました。太宰治の第1回芥川賞候補作も同誌が発表誌です。戦時中、改造社が解散になり、発行は河出書房に引き継がれます。戦後、野間宏、椎名麟三、中村眞一郎などの戦後派作家にいち早く注目したのも同誌でした。何度かの休刊を経て復刊し、季刊に変更後は、文学の領域を越えたテーマ特集や若手作家の特集を組むなど、より広い読者層を想定した誌面となっています。「文藝賞」からは、高橋和巳、田中康夫ほか多くの作家が輩出しており、綿矢りさもその一人です。

▼『文学界』の発行部数は通常は1万部、季刊の『文藝』は2万部。中間小説誌『オール讀物』（文藝春秋）の5万部余とは大きな差があります。図書館でも、『オール讀物』や『小説新潮』などの中間小説誌の方がよく読まれています。しかし、住民の皆様の多様な資料要求にお応えするために、文学でも硬軟あわせて定評ある雑誌を品揃えしています。

オススメの雑誌たち

Meets Regional

関西に長年住んでいるけれど、遊ぶところはいつも同じ場所...すぐそばにある街にディープに密着！遊べる街を開拓しよう。あなたの知ってるつもりもざっくり切り崩してくれます。

京阪神
エルマガジン社

BRUTUS

1980年創刊、男性向けクオリティマガジンの草分け的存在。その時々合ったテーマや日常の匂い、ない一コマを特集しています。大人の男性としての魅力とは何か、ライフスタイルを確立してみませんか？

マガジンハウス

mono:モノマガジン

「物」を扱った専門雑誌。トレンドアイテムや、いろんなテーマごとの物に注目します。アウトドア用品から自転車、時計まで、掲載されているものは、ついつい欲しくなるものばかりです。

ワールドフォトプレス

なごみ

せわしなく回り続ける社会、心にゆとりをもっていますか？悠久の時間を生きる文化に触れて、疲れた心をリフレッシュ。それなら「なごみ」がおススメです。茶の湯を中心とする日本文化を総合的に紹介する月刊茶道誌です。

淡交社

日本カメラ

幅広い世代に人気の趣味といえば、カメラ。アマチュアカメラマンの欲しい情報を発信し続けて50年余り。プロの作品はもちろん、写真の撮り方から機材の紹介まで、多岐に渡る情報を掲載。誌上でコンテストも実施しています。

日本カメラ社

ランナーズ

気軽に取り組める運動といえばランニング。本格的に始めてみよう、と思っている人も多いはず。ストレッチや本番に向けての調整の仕方、食事のとり方などのさまざまな工夫が載っています。さあ、これを読んで次の精華マラソンにチャレンジ！

アールビーズ

日経 WOMAN

働く女性に役立つ経済やビジネスの情報が満載。充実した休日の過ごし方や、恋愛、結婚、出産、自分磨きまで、働く女性を応援します。

日経BP社

山と溪谷

「ヤマケイ」の名前で親しまれるこの雑誌。コラム「週末に楽しむローカル低山」や、読者が登山の体験を語る「読者紀行」など、色々なコラムや連載を参考に、登山の計画をさっそく立てちゃおう！

山と溪谷社

雑誌スポンサー募集中！！

雑誌スポンサー制度をご存じですか？これは、企業や商店、団体等に雑誌の購入代金を負担していただき、提供雑誌の最新号カバー（表・裏）と雑誌書架に、スポンサー名やスポンサーの広告を掲示する制度です。たくさんの方に利用される雑誌コーナーで、図書館の利用者に宣伝してみませんか？みなさんも、ぜひ雑誌コーナーのスポンサー広告にご注目ください！

詳しくはこちらのHPをご覧ください ⇒ <http://www.town.seika.kyoto.jp/library/>